

今回このストラスブールの語学研修へ参加したことは、フランス語やフランスそのものについての新たな知識を与えてくれたり、それまで忘れていたことを思い出させてくれたりした。

学んだことの一つ目は、コミュニケーションについてである。この研修より以前までは私は日常的に使われる生きたフランス語というものに触れる機会はなかなか無かった。しかしながらこの研修で実際にフランスに行き、フランス語に囲まれた生活を送ることによりリーディングやライティングの能力のみならず、リスニングやスピーキングの能力の向上も実感することができた。向上したものについて、具体的にはまず語彙力が挙げられる。この語彙力においては新たに学んだものはもちろんのこと、これまで少しだけ出てきたもののそのまま使わずに忘れてしまった単語を再び思い出すということもしばしばあった。特に、そういった再び思い出した単語というのは初めて覚えた時、すなわち忘れる前よりもかなり忘れにくくなっていると思われる。また、新たに覚えた単語についても、実際に使われている場面を体験したということによりやはり普通に覚えるより定着しているはずである。また、フレーズや言い回しについても学ぶところが多かった。具体例を挙げると、現地の学生の方とストラスブールの街を回っているときに、“tant mieux”と“tant pis”というフレーズについての話を聞いた。初めて聞いたときは耳になじみの無い言葉だと思ったが、意味としては「それはよかった」「それは残念だ」など身近に使えるものであったので、やはり現地に赴くことによって知ることのできる生きたフランス語が数多くあるのだと実感した。更に、一度習ったものの忘れかけていたこと、例えば複合過去と半過去の使い分けや顔・体の各部分の名称、色の名前などのことを現地の授業で学び生活の中で実際に使ったりすることによってただ思い出すだけではなくちゃんと頭に残すことができたように感じる。2週間という限られた期間の研修でどれほど自分のフランス語の力が伸びるか参加する前までは疑問に思っていたが、想像以上の成果を得ることができたと私は思う。

二つ目はフランスの文化についてである。そもそも、大学に進学して第二外国語としてフランスを選択する以前は、私はフランスに対してほとんどと言っていいほど具体的なイメージを持っていなかった。しかし、フランス語を学ぶと共にフランスの文化そのものについても少しずつ知っていくことになり、文化事情の講義を受けることによってフランスという国に対するイメージが確立されていった。ところが、実際に肌で感じたフランスの文化はやはり学んだだけの知識とは大きく違った。料理というものはその顕著な例である。文化事情の講義でアルザス地方の名物料理としてシュークルートやクグロフがあり、それがどのような料理なのかという話を聞いておいしそうだとは思っていたが、実際に口にしてみて想像以上の味であったことに感動した。また、フランスのパン屋でポピュラーなものにはクロワッサンの他にパン・オ・ショコラがあることや、日本のパン屋が焼き立てを提供することにこだわることにに対してフランスでは冷めていても気にすることはなく、ま

たパンが冷めていても美味であることなどを知った。他にも街並みや大聖堂の美しさは実物の方が写真で見ると何倍も美しかった。一方で、新たに学んだことは必ずしも全てがいい面ばかりでは無かった。歴史ある美しい街並みではあるが、歩道にはかなりの量のタバコの吸殻や犬の糞が落ちていたり街中の至るところに街の雰囲気にとぐわぬ落書きがあることや、物乞いがそこかしこに座り込んで待ち行く人にお金を要求していることなど、負の側面というものも否応なしに目にすることとなった。

三つ目は、アルザスの歴史についてのことだ。私は高校の歴史の授業では日本史を選択していたため、フランスの歴史というものに関してはほとんど無知だった。今回、文化事情の講義でその歴史について少しではあるが学び、そして現地でその歴史を自分の目や耳で感じたという体験は、それゆえに非常に新鮮で興味深く感じられた。特にその歴史のおもしろさを実感したのは家庭訪問で受け入れてくださったホストファミリーと共にオークスブル城を訪れた時である。歴史上何度も所属する国が変わり、それに伴って何度も城主が入れ替わったその城の内部は複雑に入り組んでおり、その城が常にフランスとドイツとの争いの最前線にあったことが感じられた。また、ホストファザーからその周辺には山城が他にもあるということを知り、私はこのあたりの城は全て山の上にあるのかと尋ねた。すると、ホストファザーはその通りだと言って、山の上に城を建てる理由としては敵の侵入を困難にすることの他に、上から進軍や交易のルートを見張る目的もあるのだと教えてくれた。これは、一つ目に挙げたコミュニケーションの項目にも通じることだが、このようにして自分が歴史上の場所に立って自分で会話することによって得た知識というものは鮮明に頭に残る。その意味で、今回の研修は日本史しか学んでこなかった私が初めて外国の歴史を学ぶ場としては非常に有効であったと感じた。

以上のように、私はストラスブルにおいてコミュニケーション、文化、歴史について多くのものを学んだ。その中には、素晴らしい部分や日本人が学ぶべき部分もあれば、悪い部分や日本人には理解しがたい部分もあった。しかしながら、異なる文化を理解する上で一番大事なことは、良い部分はもちろんのこと悪い部分もしっかりと見つけ、目を背けずにいることではないだろうか。この研修で私が新たに身につけた知識は、私にそのようなことを教えてくれたと私は考える。

(2356 語)